

## «手水舎の歴史と移設経緯»

### 江戸時代初期(天保 5~7 年頃)

浮世絵集「江戸名所図絵」に、随神門と拝殿の中間付近に手水舎らしき建物が描かれています。当時は柱と水盤のみの簡素な作りであったと想定されます

### □明治期の移動(明治 24~7 年頃)

明治 24 年(1891 年)と明治 37 年(1904 年)発行の境内図には、現在の枝垂桜のあたりに手水舎が描かれています  
この頃、手水盤(水槽)は文化 10 年(1813 年)製の旧水盤をそのまま用い周囲に新たな建屋(母屋)を設けたと考えられます

### □明治 30 年の再建

現在見られる豪華な手水舎は、明治 30 年(1897 年)に拝殿や随神門を造営した棟梁・佐藤彌一と中村長作によって設計されました  
千鳥破風の屋根、および飯田家4代目・勇次郎による獅子・龍・象鼻・摸・鳳凰などの彫刻が施され、大変精巧で美しいものです

### □平成 23 年の改修と移設(2011 年)

鎮座 1900 年を記念して改修工事が行われ、  
**手水舎は随神門の外側、西参道の角へ移設されました**  
田丸屋建設株式会社が工事を担当し、新たな水盤が奉納されました。  
一方、旧水盤は所管社である国府八幡宮へ、旧随神門とともに移築保存されています